



パフォーマンスポリシーの作成

OnCommand Insight

NetApp
April 01, 2024

目次

パフォーマンスポリシーの作成	1
手順	1
パフォーマンスと品質管理の違反通知の設定	3
ネットワーク内の違反を監視します	3

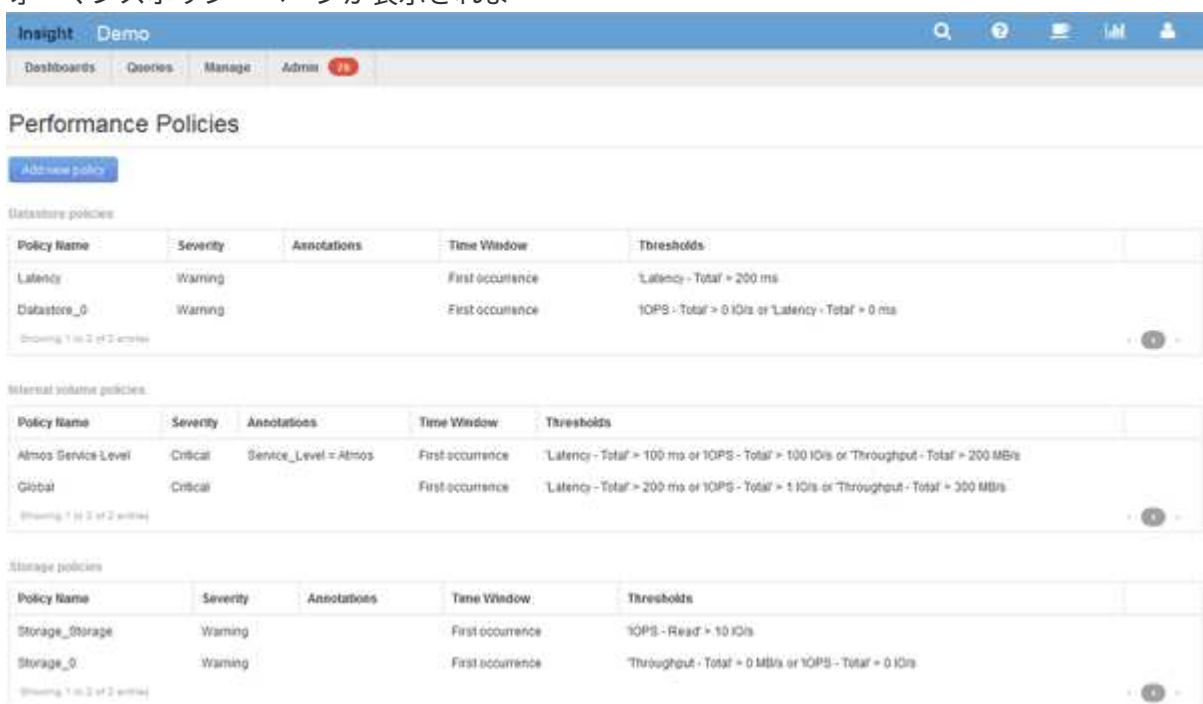
パフォーマンスポリシーの作成

パフォーマンスポリシーを作成して、ネットワーク内のリソースに関連する問題についてユーザに通知するアラートをトリガーするしきい値を設定します。たとえば、ストレージプールの合計使用率が 60% を超えたときにアラートをトリガーするパフォーマンスポリシーを作成できます。

手順

1. ブラウザでOnCommand Insight を開きます。
2. >[パフォーマンスポリシー]*を選択します。

パフォーマンスポリシーページが表示されま



The screenshot shows the 'Performance Policies' page in the OnCommand Insight interface. It features a navigation bar with 'Dashboards', 'Queries', 'Manage', and 'Admin' (26). Below the navigation bar, there's a 'Performance Policies' section with an 'Add new policy' button. The page displays three tables of policies:

Datastore policies:

Policy Name	Severity	Annotations	Time Window	Thresholds
Latency	Warning		First occurrence	'Latency - Total' > 200 ms
Datastore_0	Warning		First occurrence	IOPS - Total > 0 I/Os or 'Latency - Total' > 0 ms

Network volume policies:

Policy Name	Severity	Annotations	Time Window	Thresholds
Atmos Service Level	Critical	Service_Level = Atmos	First occurrence	'Latency - Total' > 100 ms or IOPS - Total > 100 I/Os or Throughput - Total > 200 MB/s
Global	Critical		First occurrence	'Latency - Total' > 200 ms or IOPS - Total > 1 I/Os or Throughput - Total > 300 MB/s

Storage policies:

Policy Name	Severity	Annotations	Time Window	Thresholds
Storage_Storage	Warning		First occurrence	IOPS - Read > 10 I/Os
Storage_0	Warning		First occurrence	Throughput - Total > 0 MB/s or IOPS - Total > 0 I/Os

す。

ポリシーはオブジェクト別に編成され、そのオブジェクトのリストに表示される順序で評価されます。

3. [新しいポリシーの追加]*をクリックします。

[Add Policy]ダイアログボックスが表示されます。

4. [ポリシー名]*フィールドに、ポリシーの名前を入力します。

オブジェクトの他のすべてのポリシーとは異なる名前を使用する必要があります。たとえば、「Latency」という名前の2つのポリシーを内部ボリュームに使用することはできませんが、内部ボリュームには「Latency」ポリシーを使用し、別のボリュームには「Latency」ポリシーを使用できます。ベストプラクティスとしては、オブジェクトタイプに関係なく、すべてのポリシーに一意的な名前を常に使用することを推奨します。

5. [タイプのオブジェクトに適用]*リストから、ポリシーを適用するオブジェクトのタイプを選択します。

6. [アノテーションあり]*リストで、必要に応じてアノテーションタイプを選択し、[値]*ボックスにアノテーションの値を入力して、この特定のアノテーションが設定されたオブジェクトにのみポリシーを適用します。
7. オブジェクトタイプとして* Port を選択した場合は、Connected to *リストからポートの接続先を選択します。
8. [Apply after a window of *]リストで、しきい値違反を示すアラートが生成されるタイミングを選択します。

[First occurrence]オプションを指定すると、最初のデータサンプルでしきい値を超えたときにアラートがトリガーされます。それ以外のオプションでは、しきい値を超えたあと、その状態のまま一定の時間を経過した時点でアラートがトリガーされます。

9. [* with severity*] リストから、違反の重大度を選択します。
10. デフォルトでは、ポリシー違反に関するEメールアラートはグローバルEメールリストの受信者に送信されます。この設定を上書きして、特定のポリシーのアラートを特定の受信者に送信するように設定することができます。
 - リンクをクリックして受信者リストを開き、*+ボタンをクリックして受信者を追加します。このポリシーの違反アラートは、リスト内のすべての受信者に送信されます。
11. アラートのトリガー方法を制御するには、* Create alert if any of the following are true セクションの any * リンクをクリックします。
 - 任意

デフォルトの設定です。ポリシーに関連するいずれかのしきい値を超えたときにアラートが作成されます。
 - すべて

ポリシーのすべてのしきい値を超えたときにアラートが作成されます。[すべて]*を選択すると、パフォーマンスポリシーに対して最初に作成するしきい値がプライマリルールと呼ばれます。プライマリルールのしきい値は、そのパフォーマンスポリシーで最も考慮する違反にする必要があります。
12. Create alert if * セクションで、パフォーマンスカウンタとオペレータを選択し、値を入力してしきい値を作成します。
13. しきい値を追加するには、*[Add threshold]*をクリックします。
14. しきい値を削除するには、ごみ箱アイコンをクリックします。
15. アラートが発生したときにポリシーの処理を停止するには、*[アラートが生成された場合に追加のポリシーを停止する]*チェックボックスをオンにします。

たとえば、データストアのポリシーが4つあり、アラートが発生したときに処理を停止するように2つ目のポリシーが設定されている場合、2つ目のポリシーの違反がアクティブな間は3目と4つ目のポリシーは処理されません。
16. [保存 (Save)] をクリックします。

[パフォーマンスポリシー]ページが表示され、オブジェクトタイプのポリシーのリストにパフォーマンスポリシーが表示されます。

パフォーマンスと品質管理の違反通知の設定

OnCommand Insight では、パフォーマンスや品質管理の違反の通知がサポートされます。これらの違反に関する通知は、デフォルトではInsightから送信されません。違反が発生した場合に、Eメールを送信するか、syslogサーバにsyslogメッセージを送信するか、SNMP通知を送信するようにInsightを設定する必要があります。

作業を開始する前に

違反の送信方法をEメール、syslog、およびSNMPで設定しておく必要があります。

手順

1. >[通知]*をクリックします。
2. [イベント]をクリックします。
3. または[Assure Violations events]*セクションで、目的の通知方法（Eメール*、* syslog、または SNMP）のリストをクリックし、違反の重大度レベル（Warning and above または Critical *）を選択します。
4. [保存（Save）]をクリックします。



ネットワーク内の違反を監視します

パフォーマンスポリシーで設定されたしきい値に基づいてInsightで違反が生成された場合は、[Violations Dashboard]で確認できます。このダッシュボードには、ネットワークで発生したすべての違反が表示され、問題を特定して対処することができます。

手順



1. ブラウザでOnCommand Insight を開きます。
2. Insightのツールバーで、[Dashboards]*をクリックし、[Violations Dashboard]*を選択します。

[Violations Dashboard]が表示されます。



3. [Violations by Policies]*円グラフでは、次の方法で情報を確認できます。
 - グラフの任意のスライスにカーソルを合わせると、特定のポリシーまたは指標に対する違反の総数の割合を表示できます。
 - グラフのスライスをクリックすると、そのスライスを「拡大」できます。これにより、そのスライスをグラフの残りの部分から遠ざけることで、そのスライスを強調して注意深く調べることができます。
 - をクリックできます  アイコンをクリックして円グラフを全画面モードで表示し、をクリックします  円グラフを最小化するには、もう一度繰り返します。円グラフには最大5つのスライスを含めることができます。そのため、6つのポリシーで違反が発生した場合は、5つ目と6つ目のスライスが「その他」のスライスに統合されます。Insightでは、違反数が最も多いものが最初のスライスに割り当てられ、2番目に多いものが2番目のスライスに割り当てられます。
4. [Violations History]*チャートは次の方法で使用できます。

- グラフにカーソルを合わせると、特定の時点で発生した違反の総数と、指定した各指標についての違反の総数のうち発生した数が表示されます。
- 凡例ラベルをクリックすると、その凡例に関連付けられているデータをグラフから削除できます。

凡例をクリックすると、データが再度表示されます。

- をクリックできます  アイコンをクリックしてグラフを全画面モードで表示し、をクリックします  円グラフを最小化するには、もう一度繰り返します。

5. [Violations Table]*は次の方法で使用できます。

- をクリックできます  右上隅のアイコンをクリックしてテーブルを全画面モードで表示し、をクリックします  円グラフを最小化するには、もう一度繰り返します。


ウィンドウサイズが小さすぎる場合、[Violations Table]には3列しか表示されませんが、をクリックすると表示されます 、追加の列（最大7列）が表示されます。

- 特定の期間の違反を表示できます（* 1h、3h、24h、3d、7d、と 30d *）が表示されます。Insightでは、選択した期間について、最大1,000件の違反が表示されます。
- **[filter]**ボックスを使用すると、必要な違反のみを表示できます。
- 列ヘッダーの矢印をクリックすると、表内の列のソート順序を昇順（上矢印）または降順（下矢印）に変更できます。デフォルトのソート順序に戻すには、他の列ヘッダーをクリックします。

デフォルトでは、違反は降順で表示されます。

- **[ID]**列で違反をクリックすると、その違反の期間のアセットページを表示できます。
- 概要 列でリソース（ストレージプールやストレージボリュームなど）のリンクをクリックすると、それらのリソースに関連付けられているアセットページを表示できます。
- **[ポリシー]**列でパフォーマンスポリシーのリンクをクリックすると、**[ポリシーの編集]**ダイアログボックスが表示されます。

生成される違反が少なすぎる場合や多すぎる場合は、ポリシーのしきい値を調整することができます。

- 1ページに収まらないデータがある場合は、ページ番号をクリックしてページごとにデータを参照できます。
- をクリックできます  違反を却下します。

著作権に関する情報

Copyright © 2024 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S. このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータ ソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。